ソフトバンクの 地域IoT実装事例

ソフトバンク株式会社 2020年8月7日

お問い合わせ先 法人事業戦略本部 戦略事業統括部 IoT事業戦略室 <u>sbtmgrp-iot-sales@g.softbank.co.jp</u>





GPS内蔵のデバイスを児童に持たせ、

保護者がスマホで登下校の状況や居場所を把握



位置情報を取得 (GPS)



登下校状況を取得



スマホで確認



保護者

保護者による遠隔からのみまもりが可能になり

安心・安全なまちづくりへ



課題

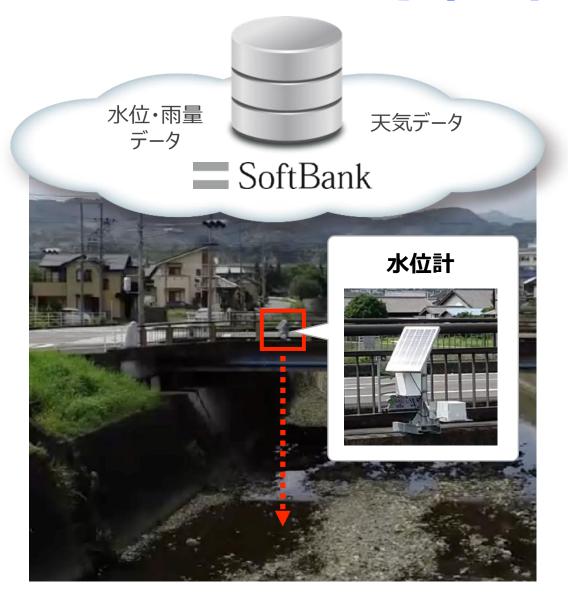
- ・保護者から、登下校中の子供の安全について 不安の声が上がっていた
- ・先生の登下校のサポートの負担が大きかった

効果

- ・子供の居場所が分かり、保護者も安心できる
- ・先生の負担も減って、安全なまちづくりへ

市内10か所の準用河川などに水位計を設置して

水位・雨量を遠隔監視



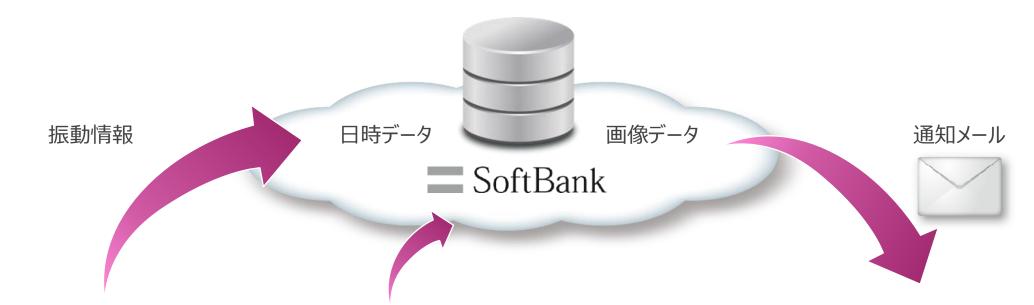


水面までの距離を電波で計測し、水位を算出

Web上で確認が可能

イノシシなどの捕獲設備の管理にIoTを活用し

効率的な鳥獣被害対策を実施



ワナにかかると振動で検知



カメラで撮影



スマホ/タブレットから確認



猟友会メンバー



カメラによる人物検知で、来場者の人数をカウント

待ち時間の自動算出が可能に



カメラで入退場の人数を検知



待ち時間を自動反映





観光HP情報



導入前の課題/想定効果

担当者の作業負荷を軽減し 来場者には正確な待ち時間の提示が可能に



課題

- ・目視での待ち時間算出だと、正確性が低く立て看板への掲示などで、作業負荷も重かった
- ・経験者の勘に頼る部分もあり、個人差もあった

想定効果

- ・担当者によるバラツキがなくなり、公開作業の 負荷も軽減した
- ・正確な待ち時間の提示により、来場者のストレス軽減も実現



センサーなどを搭載した車両と(配送業など) 衛星の位置情報を連携させ、路面状態を検知



検知

位置確認

解析/識別

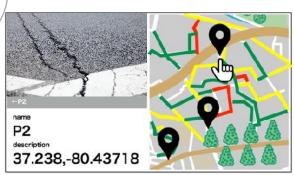
確認



路面情報を取得



位置情報を取得



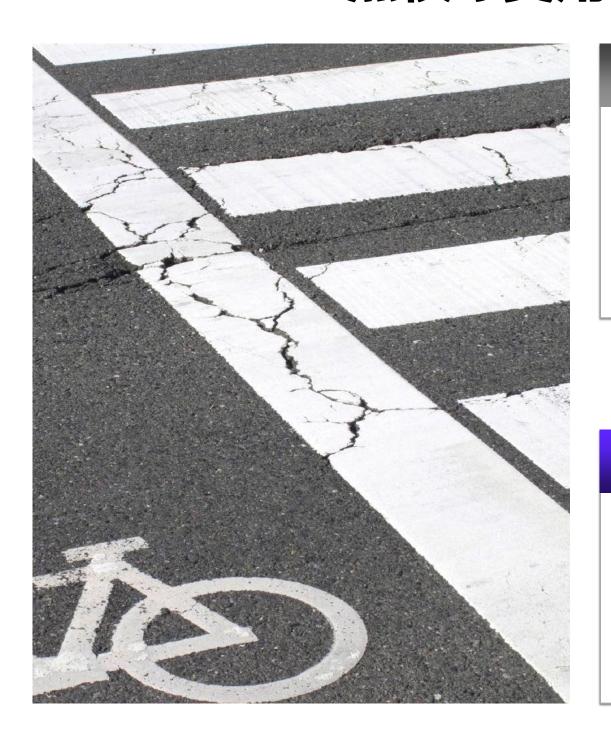
路面状態を識別



Web上で確認

導入前の課題/想定効果

定期巡回などが不要で路面状態の確認が可能になり点検の費用や時間削減も実現



課題

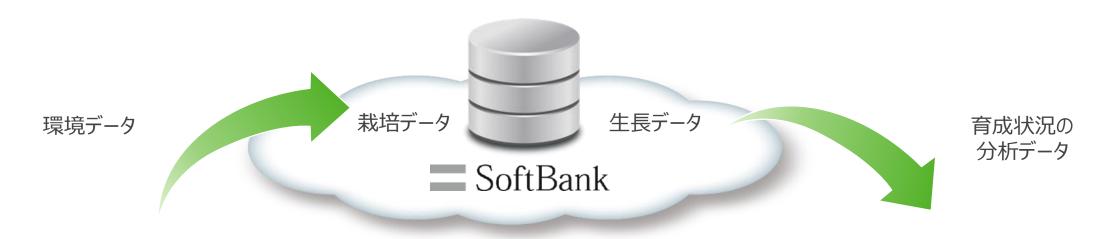
- ・熟練作業員による定期巡回が必要で、時間も費用もかなりかかっていた
- ・近隣の住民からの問合わせ等で路面の異常に 気づくことも多数あった

想定効果

- ·IoT活用によって、効率的に路面状態を把握し、 点検にかかる費用や時間を削減
- ・日常的なモニタリングで、早期の異常発見が可能さらに、事故を未然に防ぎ、修繕コストも削減



IoTを使ったセンシングシステムを導入し ハウス内の栽培データがWeb上で閲覧可能に



環境データを収集

Webアプリから確認

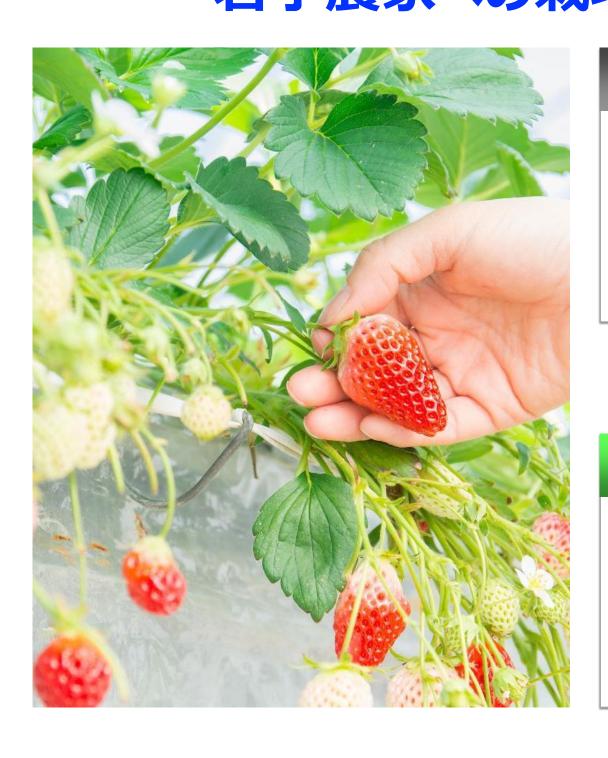








ベテラン農家のノウハウ共有が可能となり 若手農家への栽培技術継承につながった



課題

- ・新規就農者の多いいちご農業において、若手の 栽培技術向上が課題だった
- ·JAなどの指導員が現地に行ける回数が少なく、 指導頻度が低かった

効果

- ・ベテランの農家にも導入されており、データ比較 も可能なため、若手農家が参考データとして活用
- ・育成状況の分析データの共有で、遠隔からも 農業指導が可能となり、指導頻度が増加

SoftBank for Biz